

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101052		
法人名	(株)角八雲園		
事業所名	グループホームウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と尊厳のある暮らしを理念に掲げ、笑顔で接することを大切にしています。重度化が進み離床時間が少なくなられた方でも、出来るだけ共同生活による良好な刺激を受けて頂けるよう工夫していますが、重度の方中心になって、お元気な方への支援が置き去りにされてしまう事の無い様配慮しています。リアリティーオリエンテーションやレクの提供で認知症の進行緩和を図ったり、生活リハビリの一端として家事のお手伝いをお願いし、出来る力や解る力を発揮して頂く事で生きがいややりがいにつながるよう工夫しています。しかし、職員はご利用者を一方的に介護される側としてではなく、懐メロを教えて頂いたり昔の暮らしぶりを聞かせてもらったりして学びを深める等、お互いに支え合い与え合う関係を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が自分らしく穏やかに安心して暮らすことが出来る様に日々理念に沿った支援に努めている。以前は年越しや年始の行事も職員と一緒に積極的に行っていたが、重度化が進み年々様子も変わりつつある。そんな中でも今出来る事を行い、散歩の時に近所の人の庭で花を見たり、運営推進会議の委員やボランティア、防火協力員等多くの人の理解と協力が有り利用者の生活を支えている。法人として職員の研修の支援や外部からの実習生の受け入れもあり、職員の資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度末理念の見直しを行っており、地域との係わりの中でご利用者一人ひとりが尊厳を保持し安心して生活できるよう支援しているが、常にできているか不安を感じている職員もいる。	「安心と尊厳のある暮らし」を独自の理念とし、その人らしく日々の生活が送れるように話し合いをしながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災活動のメンバーとして活動している。夏祭り等の行事や各種研修のご案内等を地域へも呼びかけ、ご利用者も一緒に日常的に交流している。	歌の会、習字の会等ボランティアの来訪があり近所の人にも声を掛け参加して貰っている。週刊誌を届けてくれる人もありお礼に利用者が編んだ毛糸の束子を届ける等日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞『陽だまり』の発行や日頃の交流を通じて、認知症理解や支援方法を発信している。体験学習や実習を受け入れ、青少年の認知症理解に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やサービス状況の報告をすると共に、各委員からの忌憚らない意見をいただき、日々のサービスに活かしている。	利用者の状況や事例、取り組み等を報告し話し合っている。委員に習字の会のボランティアの後任になって貰ったり、各イベントにも参加して貰う等協力関係を築いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から市の担当者や包括支援センターと密な連携を保ち、問題や課題の解決を図っている。認定調査には同席し、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝えている。	疑問点や相談等、電話やメールでいつでも担当者や連絡を取り合い良い関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの方針であり、日中玄関の施錠はしない。職員はマニュアルを周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設時より身体拘束ゼロの方針で取り組み、玄関の施錠もしておらず外出する利用者には行動を抑止せずさり気無く付き添う様になっている。外出から帰ったら好きな飲み物を入れる等暖かく見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待はないが、研修を通して、身体的虐待はもとより心理的虐待への理解をさらに深めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば、管理者が中心となって各方面と協議し支援につなげる方針だが今のところ実例が無い。職員には、研修会参加等学ぶ機会が得られるよう配慮したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族に丁寧に説明して不安や疑問を解消し、理解納得を図っている。制度の改正等は都度文書で説明し理解を得ている。退所時及び利用中に生じた不安や疑問にも丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設置した意見箱への投入はないが、言いやすい雰囲気や大事にしておき日常的に意見をいただいている。家族代表が毎回運営推進委員会へ出席し忌憚ない意見が出されており、運営に反映している。	年数回、家族会や忘年会、敬老会、運動会等に参加して貰い交流を深めている。日常的に意見を聞くことに努め、毎月通信を発行して利用者や事業所の様子を伝え喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は月一回のリーダー会で意見交換をしている。管理者は日ごろから、職員の意見や要望、提案を聞いており、この会で検討する等して運営に反映させている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気や場面づくりをして職員が気持ち良く働く事が出来る様に努めている。職員からの意見、要望も利用者を中心に出来る所から改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者は給与水準ややりがい等職員が向上心をもって就業できるようキャリアパスを整備している。休憩室の完備、希望休の取得等働きやすさにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の充実とともに、職員の各力量に応じた外部研修の参加を推進している。復命研修を通じて全職員への周知を図り、新人研修をはじめOJTによるトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ケア連絡会、グループホーム部会等へ参加し同業者との情報交換やネットワーク作りを大切にしている。また、外部研修の機会に交流や情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から、面接や情報提供書により、不安や要望を把握している。利用初期は担当職員が一对一で寄り添い、安心して過ごせるよう配慮し、気づきを全職員で共有し信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って耳を傾け、不安や迷い、困っていることを受容している。要望や情報は速やかにケアにつなげており、ご本人の様子は密に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時の相談に応じて支援内容を具体的に説明し、時には行政、包括支援センターや他事業所の協力を求め、適切なサービスの選択を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、相談し合って行事をすすめたり、利用者と職員は常に協同して生活している。若い職員は、昔の暮らしぶりなど利用者から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の話や緊急時の電話相談は当然であるが、任せきりに近い家族もあるので情報提供として月一回のミニ通信を発行すると共に請求書にコメントを付けて発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問を、職員も一緒に歓迎しお茶を入れてもてなし、関係性を保つための取り持ちを行っている。帰省や外出の希望を家族に伝えている。	甥や姪、町内会のメンバーの来訪がありゆっくり過ごして貰える様に配慮している。正月等家や娘の所に帰って過ごす利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、食卓やレク時の席順を考えている。ゆっくり過ごされる時も孤立感の無い様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり入院の際には面会やお見舞いを行ったり、退所後も家族からの相談にのったりアドバイスを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で希望や意向を把握している。言葉の出にくい方は、表情や態度から思いや意向をくみ取る努力をしている。それも難しい場合は、ケア会議等で本人本位に検討している。	日頃の会話や、傍に寄り添う事で利用者がどのような想いで何を望んでいるかを態度、しぐさ、表情等からくみ取り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時、既担当CMから情報提供を受けただけでなく、家族や関係者から生活歴や暮らし方等についての情報を得ている。入居後に会話の中で得られるご本人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のかかわりの中で知り得た情報はケア会議や送りノートにより全員が共有しており、勤務時の申し送りや職員伝達によるリアルタイムでの情報共有を大切にしてケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を踏まえて全職員でカンファレンスを行っている。それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングは毎月のケア会議で行われている。	身体状況、家族や本人の希望を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。日々の気付きやつぶやきを参考にしながらその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日の暮らしぶりやつぶやき、健康状態等について、職員の気づきや工夫を個別に具体的に記入している。職員はいつでもこれを見て情報を共有でき、ケアや計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どうしても都合のつかない家族に代わって受診に付き添ったり、買い物などの外出他その時々ニーズに合わせて柔軟に、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌の会、習字の会、フォークダンスの集い等ボランティアを受け入れたり、地域の施設まで外出し利用させてもらい利用者に楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が囑託医をかかりつけ医に希望し、24時間の対応が得られている。それ以外を希望する場合も、事業所は病院と良好な関係を保ちつつ適切な医療が受けられるよう支援している。	月2回訪問診療や利用者や家族の希望する医師を受診出来る様に支援している。必要時には電話やファックスでの対応もして貰え緊急時にも医療機関と連絡を取り安心して受診出来る様にしている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しており、介護職員は日々の気づきや情報を提供したり相談したりして、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供をし、適切な治療が受けられるよう配慮するとともに、病状説明やカンファレンスに出席し早期退院に協力している。退院時には医療関係者と連携して支援計画を見直している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人に対して、重度化した場合や終末期のあり方について事業所で出来ることなどは入所時から十分に説明しており、話し合いながら方向を決定し方針は共有している	必要に応じて医師の指導を受け、事業所で出来る事を家族に伝え関係者と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中で心肺蘇生や初期対応の訓練を定期的に行っている。急変時の対応についてもホーム内研修を行う一方向マニュアルを整備し万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日を『防災の日』と定め利用者と防災について話し避難訓練を繰り返し実施している。近隣の協力員体制を整えて、年2回合同防災訓練も行っている。地域の協議会との連携もある。	毎月「防災の日」を決めて利用者と共に工夫した取り組みを行い意識付けを図っている。定期的に法人全体で防災訓練を実施し、地域との協力体制を築き取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるような言動をしない配慮をしている。OJTにおいて上位者は常に指導を心掛けている。	利用者の自尊心を傷つけない様に丁寧な言葉掛けをする事に気を付けている。特にトイレ誘導やパット交換時等小声で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の希望や思いを引き出せるような言葉や態度に工夫している。意思表示困難者については、表情や態度から察し、何をどうしたいか、何が欲しいか、複数の選択肢から自己決定を促す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の流れはあるが個々の希望やペース・体調に合わせ、日々その人らしい時間を作るよう工夫して過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選んでもらったり、不十分な所や乱れをさりげなく直したり「素敵ですね」「いい色ですね」等の称賛やアドバイスを行い意欲を失われないよう配慮している。マニキュアは男性にも好評である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事し、準備も片付けも個の力に応じて協働して行う。季節感重視の献立を、家庭用食器で提供しており利用者は毎回楽しみにしている。行事食は特に楽しみとなっている。	季節行事の雛餅、月見団子等を作り利用者と一緒に楽しんでいる。希望を取り入れた献立や食べやすい工夫をし提供している。食器拭き、野菜の皮むき等も出来る人は行える様にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく、個々の状態に合わせた形状で提供している。お茶事の時間をつくったり種々の飲み物を用意してこまめに促したりして水分確保の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、全介助もしくは磨き直しを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげない排泄誘導や定時誘導で、トイレでの排泄ができるよう支援している。おむつ使用者でもトイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握しなるべくトイレで排泄出来る様に支援している。オムツを使用している利用者には不快な思いをする事が無い様に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課に体操や運動を取り入れている。なるべく自然排便できるよう、バナナやヨーグルト、牛乳等の食材を取り入れると共に、排せつのタイミングを逃さない努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭的な浴室でゆっくりと入浴を楽しんでいただいております。入浴剤やヨモギ湯ゆず湯等楽しんでいただいております。	毎日や夜間入浴の希望はないが一番風呂を好む利用者には希望に沿うよう支援している。重度の利用者には足浴やシャワー浴等身体状況に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので好きな時間に休息したり邪魔されることなく安心して眠れる環境である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を周知しており、用法や留意点、副作用についても把握している。利用者の症状の変化があれば医師に伝達し処方を変更してもらう事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で、可能な手伝いをお願いし、感謝の言葉を返すようにしている。飲み物の嗜好や楽しみな事を把握し活動に取り入れている。ボランティア来訪や外出等は良い気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも、戸外へ出る機会を作っている。歩行困難者も車椅子を使用し外気欲を楽しんでもらっている。希望に応じたドライブ等は大変喜ばれている。	外気浴や、希望の買い物や実家の近くや見慣れた風景を求めてのドライブ、古民家カフェに行く等支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や、外出先でのお土産を買う際支払いをしてもらったり、本人や家族の希望により、小額の所持をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に掛けられるし、頼まれればダイヤルを回したり取り次いだりしている。来文書は手渡し代読する事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには花や利用者の作品を飾り、懐かしい流行歌を流し居心地よく暮らせる工夫をしている。食堂や居室、浴室やトイレ等常に清潔に保ち不快な気持ちにならないよう配慮している。	季節感や生活感を大事にした環境作りをしている。行事の写真や皆で作った作品を飾り、週刊誌等を置きくつろげる場を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ソファでくつろいだり、気の合う者同士お茶を飲んだり、テラスで日光浴を楽しんだりして思い思いに過ごせるように、お気に入りの物や家具の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族は本人に合わせて家具や時計等持ち込まれており、職員は壁を飾るなど居心地良く暮らす工夫をしている。	習字、写真、賞状等を壁に飾ったり、足、腰を鍛えるスポーツ機具を置く等、自分の好みに合わせて思い思いの居室作りをして心が休まる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の、できる力やわかる力を把握して、居室への道順やトイレ表示を貼る等不安や迷いの軽減のために工夫をしている。		